

第23期報告書

2012年10月1日～2013年9月30日

株式会社セプテーニ・ホールディングス

証券コード：4293

株主メモ

事業年度	毎年10月1日から翌年9月30日まで
定時株主総会	毎年12月
株主確定基準日	定時株主総会・期末配当金 9月30日 その他必要がある場合は、あらかじめ公告して定めます。
公告方法	電子公告 http://www.septeni-holdings.co.jp/ ただし、やむを得ない事由により電子公告をすることができない場合は日本経済新聞に掲載いたします。
株主名簿管理人 (特別口座管理機関)	東京都千代田区丸の内一丁目4番1号 三井住友信託銀行株式会社
各種お問合せ先 郵便物送付先	三井住友信託銀行株式会社 証券代行部 〒168-0063 東京都杉並区和泉二丁目8番4号 TEL：0120-782-031 (フリーダイヤル)
株式の売買単位	100株
証券コード	4293



株式会社セプテーニ・ホールディングス

<http://www.septeni-holdings.co.jp/>

■本報告書の中の業績予想等につきましては、本報告書作成時点において入手可能な情報に基づき作成したものであり、実際の数値は、今後さまざまな要因により予想数値と異なる結果となる場合があります。

■本報告書の中の会社名およびサービス名は、各社の商標または登録商標です。

■社是

ひねらんかい (知恵を出そう、工夫しよう)

■経営目標

Strong & Great 強く偉大な会社

■経営方針7原則

Speed

組織としての意思決定はもちろん、お客さまへの対応やサービス提供のスピードを速めることで、ビジネスチャンスを実際にとらえると同時にお客さま満足の上につなげています。

Stretch

当社では常により高い目標を目指し続けています。過去と同じことをしていたのではその目標に届くことはできず、絶えずイノベーションを起こし変化することで成長を遂げてきました。

Partnership

経営陣・社員の区別なく全社員が経営者意識を持って業務にあたることを説きます。

Fair & Open

当社ではやったらやった分だけ公平に評価されるという環境と、結果を社員全員にディスクロージャーするオープン経営を実現します。

Originality

経済環境に関係なく卓越した利益をあげるため、情熱を持って取り組めるものは何か、自社がNo.1になれるものは何か、それは利益を生むものか、の3点を満たすものを事業に掲げ、誰にも負けない事業を展開します。

Passion

必ずできるという意志の強さ、情熱、どんな困難にぶつかっても最後は必ず勝てるという信念を持ち続け、増収、増益も実現し続けます。

Free & Rule

強く偉大な会社になるためには、きちんとしたルールに基づく秩序と、その中での創造性が必要です。当社では規律の中の自由を文化とします。



PROJECT-
With the Earth

この冊子の印刷・製本に係るCO₂は
PROJECT- With the Earth を
通じてオフセット(相殺)しています。



TOP INTERVIEW

モバイル、ソーシャルに注力し
2期連続で最高益を更新
今後はグローバル展開も加速し
「利益倍増」を目指します



株式会社セプテーニ・ホールディングス
代表取締役社長 佐藤光紀

——最近の経営環境についてはどのように捉えておられますか？

インターネットを取り巻く環境変化にいち早く対応して大きく飛躍

広告をはじめインターネット産業は多くの分野で高成長が続いていますが、昨今の成長を支えているのはやはりスマートフォン(スマホ)関連分野でしょう。スマホの普及によりインターネットの利用形態は多様化し、生活者のネット接触時間は4年前に比べて40%以上伸びたといわれています*1。一方、ソーシャルメディアの利用拡大も顕著で、世界最大のSNSであるFacebookでは、2013年に入りアクティブユーザーが世界で11億人を超えました。なかでもスマホからアクセスしているユーザーが8億人以上と全体の7割強となっており、ここでも急

速にスマホシフトが進んでいることがわかります。

当社グループはこういった環境の変化にいち早く対応し、当期[第23期]も成長市場であるスマホやソーシャルメディアの市場で大きな飛躍を遂げています。

——当期[第23期]の取り組みおよび業績についてお聞かせください。

ネットマーケティング事業が連結業績を牽引 2期連続で過去最高益を更新

当期の連結業績は、主力のネットマーケティング事業が牽引し、売上高459億円、営業利益15.9億円となりました。経常利益、当期純利益を含め全ての利益項目において2期連続で過去最高を更新しています。

特にスマホ向け広告が引き続き高成長を維持しており、売上高は前期比約2.6倍に拡大し、売上構成比は約27%に上昇しています。需要の拡大に加えて、自社開発のスマホ広告効果測定ツールを積極展開し、スマホ広告市場におけるさらなる競争力強化を図ったことが奏功したと捉えております。

また、当社グループが早くから注力してきたFacebook関連事業では、売上高が前期比約4.6倍に伸長しました。当社グループは、2013年にFacebookから国内初の「モバイルメジャーメントパートナー」、広告分野では現時点で国内唯一となる「認定マーケティングデベロッパー」に選ばれており、その強力なパートナーシップを活かして現在ではFacebook広告において業界最先端のサービスを提供しています。

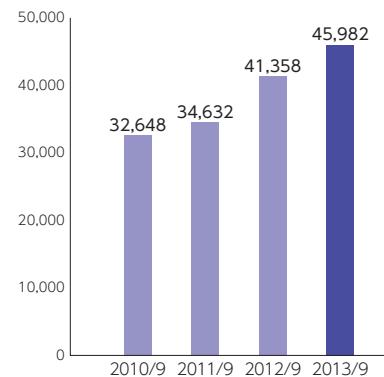
そのサービス開発拠点として、当期はベトナムに現地法人を設立しました。Facebook関連のサービスのみならず、そのほかの新しいサービスを生み出すオフショア拠点として現地の優秀なエンジニアを多数採用し、急速に規模を拡大しております。

海外拠点としては、ほかにも前期に設立した北米(サンフランシスコ)とシンガポールにおいて顧客開拓を進めております。海外と日本との双方向プロモーションを行うクロスボーダー取引を軸に、今後もより一層海外事業を積極展開してまいります。

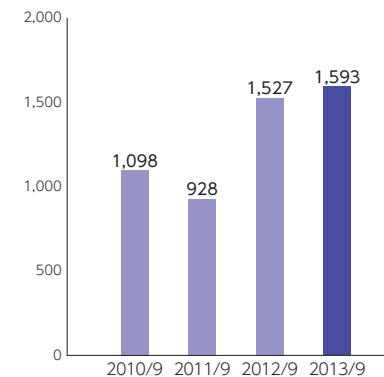
ソーシャルゲームの事業スタンスを転換 新規事業としてマンガコンテンツ事業を開始

メディアコンテンツ事業では、ソーシャルゲーム事業が次の成長の踊り場に入ったと認識しています。ブラウザゲームでは一定の存在感を維持したものの、ネイティブアプリゲーム市場の成長といった環境変化も影響し、当期の売上は伸び悩みました。それを踏まえて第3四半期からはソーシャルゲームの事業スタンスを「ミドルリスク・ミドルリターン」に転換し、協業や受託案件も積極的に取り組むなど、収益確保と開発力向上を図りました。そうした中、アクセルマークでは、初のネイティブアプリを株式会社セガと協業で手掛けています。これからの

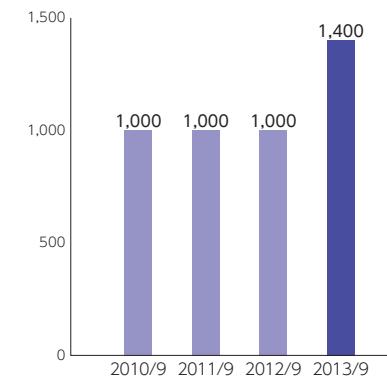
売上高
(単位:百万円)



営業利益
(単位:百万円)



1株当たり配当金
(単位:円)



*2013年10月1日付で普通株式1株につき200株の割合で株式分割を実施しておりますが、2013年9月期の期末配当金につきましては当該株式分割前の株式数を基準に配当を行います。

ゲーム事業は、市場拡大が見込まれるネイティブアプリを中心に展開していく予定です。

一方で当期からは、グループの代表である私自身が直轄する新規事業として「マンガコンテンツ事業」を開始しました。マンガやキャラクターといった自社IP（知的財産）をつくることを目的に、現在は主にマンガ家の育成と新たなマンガ配信プラットフォームの開発を進めています。ほかにもセブテーニ・ベンチャーズでは、人材採用プラットフォームである「ViViViT」など4つの新サービスを立ち上げました。今後も新規事業の開発も継続的に行っていく予定です。

——当期までの中期経営計画の総括をお願いいたします。

ネットマーケティング事業が計画通り成長 新規事業は想定より伸び悩む

当期までの3カ年の中期経営計画におけるコンセプトは「セブテーニ・オリジナル」でした。成長分野への積極投資を通じて、自社サービス中心の業態へ転換し、高成長・高収益のビジネスモデルをつくることを目指し、「モバイル」「ソーシャル」「プラットフォーム」を注力分野として位置づけました。業績目標は売上高500億円、営業利益30億円と意欲的なものでしたが、実績については既に申し上げたとおりで、残念ながら未達となりました。ネットマーケティング事業を中心とする既存事業は概ね計画通りに推移しましたが、ソーシャルゲーム市場の環境変化等により、BtoC自社サービスを中心とする新規事業の成長スピードが想定を下回ったためです。そのような環境下においても事業開発を加速させ、期間中に11の新規事業を開始、そのうち8事業が現時点で継続中です。

新規事業については、チャレンジを続けて多数のスクラップ&ビルドを行うなかで、初めて大きなヒットの芽が生まれると考えているため、今後も積極的に事業開発を行っていききたいと考えております。

——次期[第24期]以降の新しい中期経営方針についてお聞かせください。

「利益倍増」に向けて モバイル・ソーシャル・グローバルに注力

この次期からの中期経営方針のコンセプトは「利益倍増」です。高収益事業の構成比を上げ、広告に次ぐ事業の柱をつくることを目指します。既存事業、新規事業問わず、事業のミックスをより高収益なものに変えていきたいと考えております。

そのための注力分野を「モバイル」「ソーシャル」「グローバル」の3つに定めています。「モバイル」「ソーシャル」については前回の中期経営計画と同様ですが、「グローバル」についても経営資源を投下して注力し、海外事業をしっかりと事業の柱に据えていきたいと考えております。既に北米やアジアの拠点での事業活動を通じて、海外



でのビジネス展開を行う基盤整備はできました。これからはそれを実際の成果に変えていきたいと考えております。

これらの取り組みを実現するための、当社グループが持つ一番の資産は「人」です。「一人ひとりのアントレプレナーシップで世界を元気に」を合言葉に、次期は社員一人ひとりが、成長のエネルギー源である自らの「原点」を見つめなおしつつ、各々の力を最大限に発揮する1年にしたいと考えております。当社グループの「人」に対する姿勢や取り組みは外部機関からも高く評価されており、2013年は「働きがいのある会社ランキング」で12位にランクインすることができました*2。今後もより人の力をユニークかつ最大限に発揮できる、働きがいのある企業文化づくりを進めていきたいと考えております。

——最後に、株主の皆様へのメッセージをお願いします。

当期は3期ぶりの増配を実施 今後も持続的かつ飛躍的な成長を目指す

株主の皆様への利益還元については、従来どおり連結純利益の15%程度を目安にしております。当期については、純利益の大幅伸長に伴い3期ぶりの増配を実施いたしました。今後も業績の拡大に応じた適切な利益配分を基本としながら、安定配当の継続にも配慮していく方針です。

前期に引き続き、当期も過去最高益を達成しましたが、当社の成長はまだこれから本番だと認識しております。今後も成長分野への積極投資を行い、持続的かつ飛躍的な成長を目指してまいります。引き続きご支援をよろしくお願い申し上げます。

*1.株式会社博報堂DYメディアパートナーズ「メディア定点調査2013」より
*2. Great Place to Work® Institute Japanによる2013年版「働きがいのある会社」ランキングで、セブテーニグループ(対象11社)は12位にランクイン

2014年9月期以降の中期経営方針

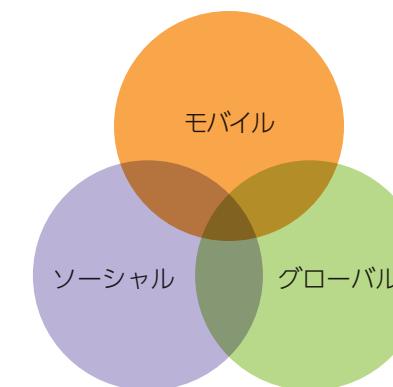
コンセプト

「利益倍増」

高収益事業の構成比アップ

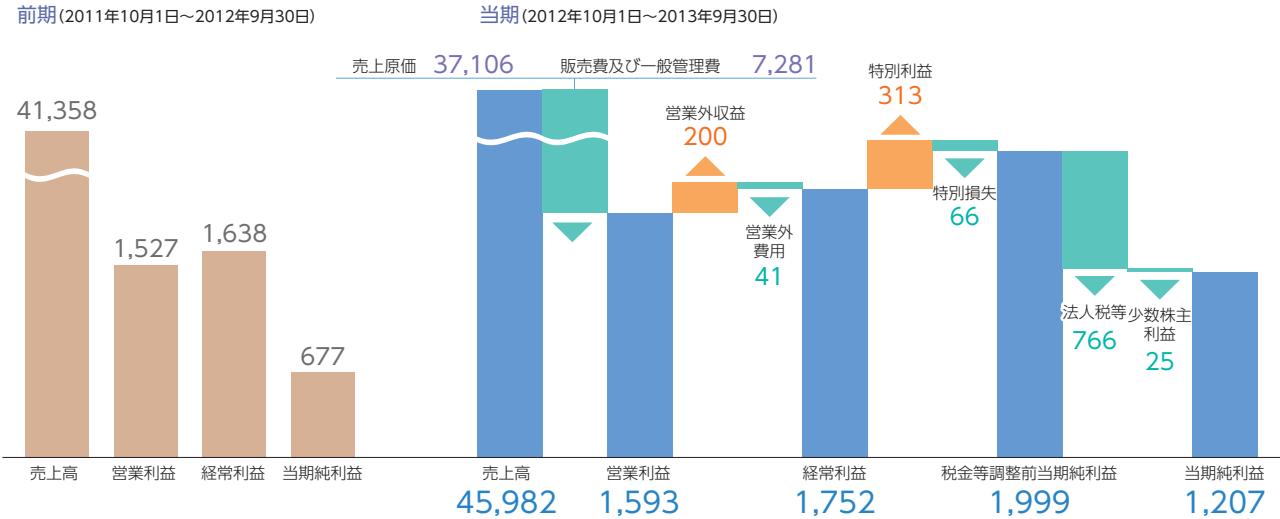
広告に次ぐ事業の柱をつくる

注力分野



財務情報

連結損益計算書の概要 (単位:百万円)



Point 1 売上高

主力のネットマーケティング事業の業容が順調に拡大したことから、売上高は前期比11.2%増の45,982百万円となり、3期連続で過去最高を更新いたしました。

Point 2 営業利益/経常利益

ネットマーケティング事業の利益拡大がメディアコンテンツ事業の減益をカバーし、営業利益は前期比4.3%増の1,593百万円となりました。また、投資有価証券評価益の増加等による営業外収益の拡大もあり、経常利益は前期比7.0%増の1,752百万円となり、共に2期連続で過去最高を更新いたしました。

Point 3 当期純利益

経常利益の増加に加え、グループ会社2社を売却したことで合計313百万円の特別利益を計上したことにより当期純利益は前期比78.3%増の1,207百万円となり、こちらも過去最高を更新いたしました。

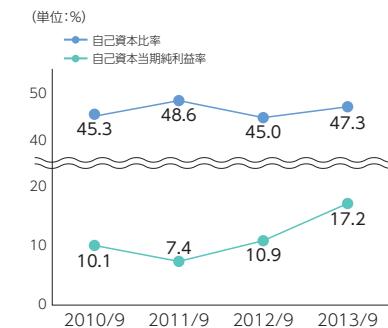
当期純利益/1株当たり当期純利益



総資産/純資産

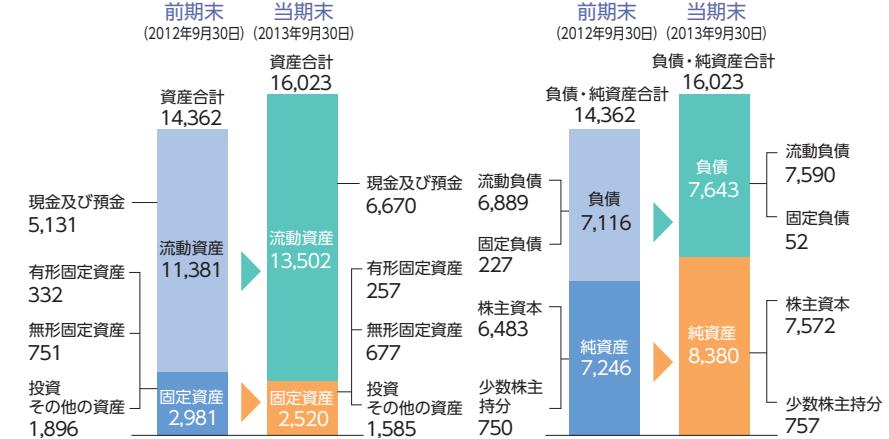


自己資本比率/自己資本当期純利益率



※2013年10月1日付で普通株式1株につき200株の株式分割を行っております。1株当たり当期純利益につきましては、2010年9月期の期首に当該株式分割が行われたと仮定して算出しております。

連結貸借対照表の概要 (単位:百万円)



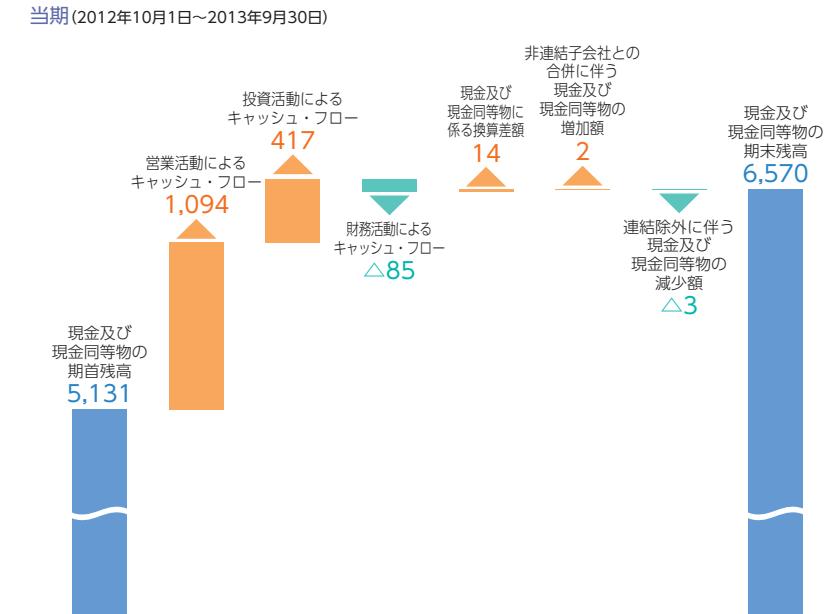
Point 4 総資産

流動資産は、現金及び預金や受取手形及び売掛金の増加等により前期末に比べ2,121百万円増加し、13,502百万円となりました。固定資産は、投資有価証券の減少等により前期末に比べ460百万円減少し2,520百万円となりました。これらの結果、総資産は前期末に比べ1,660百万円増加し16,023百万円となりました。

Point 5 負債/純資産

負債合計は、買掛金や短期借入金の増加等により前期末に比べ526百万円増加し7,643百万円となりました。純資産は、当期純利益の計上に伴う利益剰余金の増加等により前期末に比べ1,134百万円増加し8,380百万円となりました。

連結キャッシュ・フロー計算書の概要 (単位:百万円)



Point 6 キャッシュ・フロー

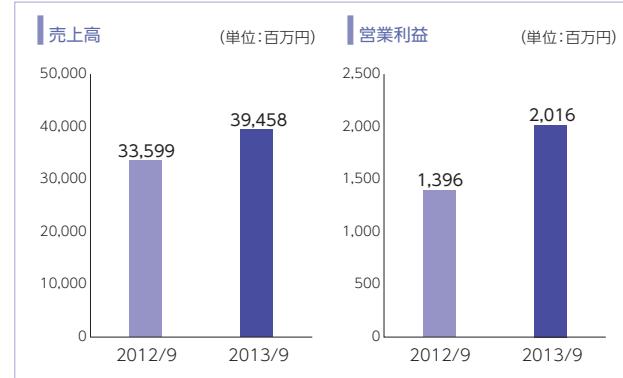
税金等調整前当期純利益が大幅に増加したこと等により営業活動によるキャッシュ・フローが1,094百万円のプラスになったことに加え、投資有価証券の売却等により投資活動によるキャッシュ・フローも417百万円のプラスとなったことで、現金及び現金同等物の残高は前期末に比べ1,439百万円増加し6,570百万円となりました。

セグメント別情報

ネットマーケティング事業

主要な事業内容：

インターネットを活用した包括的なマーケティング支援サービス全般



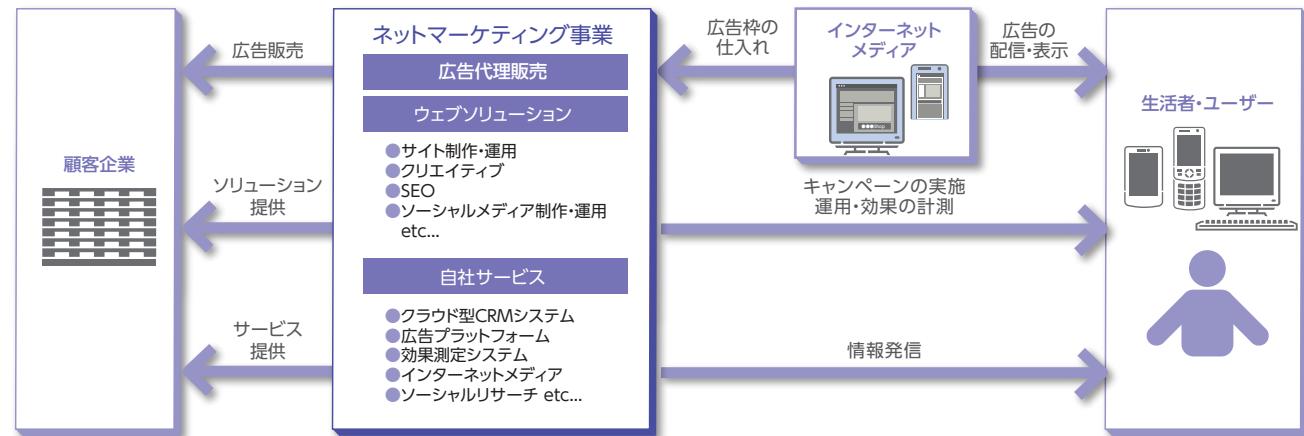
業績理解のポイント

スマホとFacebookが業績を牽引し高成長が続く

2013年9月期の概況

- 景況感の改善と運用型広告の需要拡大を背景に、前期に続きニケタ増収と収益性の向上を実現しました。
- スマートフォン向け広告が高成長を続けています。売上高は前期比約2.6倍となり、構成比は27%に上昇しました。
- Facebook関連事業が大幅に拡大し、売上高は前期比約4.6倍に伸長しました。特にモバイル(スマホ)広告が急成長しています。
- オフショア開発拠点としてベトナムに現地法人を設立しました。前期設立の北米(サンフランシスコ)とシンガポールの現地法人では顧客開拓が進みました。

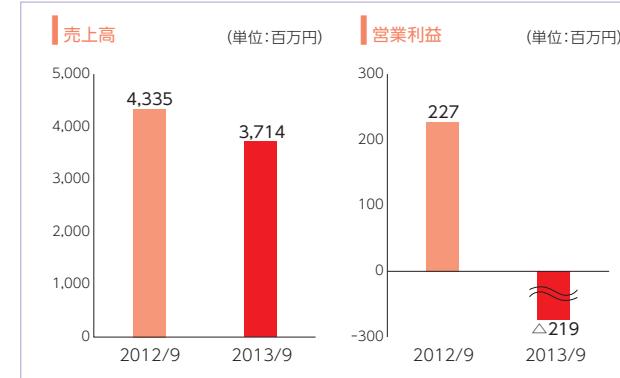
ネットマーケティング事業の概要



メディアコンテンツ事業

主要な事業内容：

スマートフォン・従来型携帯電話向け各種デジタルコンテンツ（ソーシャルゲーム、音楽、書籍、動画等）の企画・開発・運営



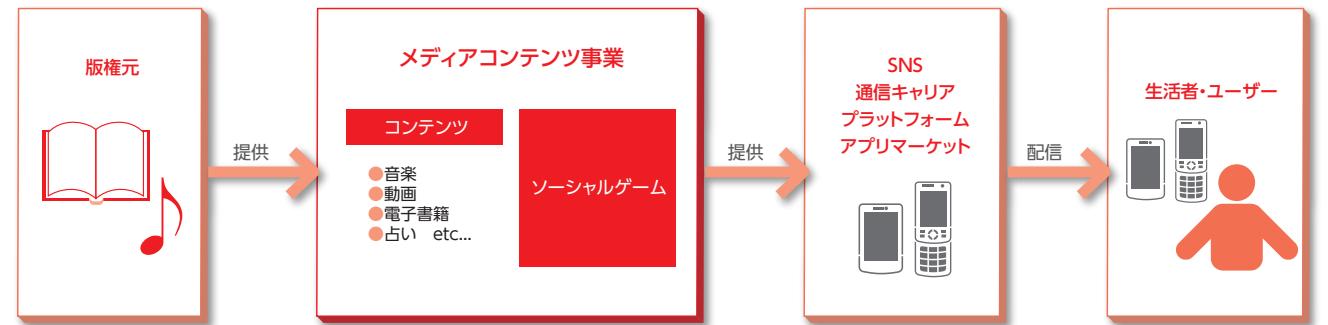
業績理解のポイント

ソーシャルゲームが伸び悩む一方、新規事業への先行投資を積極化

2013年9月期の概況

- ソーシャルゲーム事業の売上高が前期比5%減の約20億円と伸び悩みました。ネイティブアプリゲーム市場の成長といった環境変化も影響しています。
- 環境変化を踏まえ、第三四半期よりソーシャルゲームの事業スタンスを転換しました。協業や受託案件も積極的に手掛け、収益確保と開発力向上を図っています。
- アクセルマークが、DeNAとは大型IPタイトルを、セガとは初のネイティブアプリをそれぞれ協業で手がけました。
- マンガコンテンツ事業をはじめ5つの新規事業を開始しました。新規事業の先行投資に係る営業損失は154百万円となりました。

メディアコンテンツ事業の概要



トピックス

当期の主なニュース

2012/11

株式会社セプターニ・ホールディングス

日本IR協議会選定の2012年度
「IR優良企業奨励特別賞」を受賞



2013/3

株式会社セプターニ

開発拠点としてベトナム現地法人
SEPTENI TECHNOLOGY CO., LTD.
を設立

SEPTENI
TECHNOLOGY

2013/9

アクセルマーク株式会社



初のネイティブアプリ
ゲーム
「反逆のシエルアーク」
を(株)セガとの協業で
提供開始

2012/10 11 12 2013/1 2 3 4 5 6 7 8 9 10

2013/3

株式会社セプターニ

Facebookの
「認定マーケティングデベロッパー」
(広告カテゴリー)に選出

Facebookより当社の広告取扱実績
や自社開発のFacebook広告運用最
適化ツール「PYXIS」における技術ソ
リューションが評価され、「認定マー
ケティングデベロッパー」(広告カテ
ゴリー)に選出されました。



2013/8

株式会社セプターニ

(株)メタップスと業務提携

スマホ向けリワード広告配信プラットフォームを運営する
(株)メタップスと業務提携契約を締結いたしました。これに
よりスマホ広告市場における更なる競争力強化を図ります。

metaps®

当期開始の新規事業

コア新規事業 (社長直轄)

マンガコンテンツ事業

COMICSMART

自社IPの企画・開発を目的としたマンガ家の
育成・輩出、専門サイトの運営等

<http://www.comicsmart.co.jp>

マンガ家育成・支援

当社オフィス内に設置した
専用スタジオを提供するな
ど、マンガ家の創作活動を
全面的に支援



マンガ配信プラットフォーム

GANMA!

オリジナル新作マンガ配信
サービス

マンガポケット

マンガの投稿と共有のソー
シャルサービス

セプターニ・ベンチャーズによるインキュベーション

MANT

クチコミによる
ファッション情報サイト
<http://mant.jp>

ViViViT

IT・Web関連業界に特化した
マッチング型人材採用プラッ
トフォーム

<https://www.vivivit.com>

PocketClass

オンライン講座プラッ
トフォーム

<https://pocketclass.jp>

gooddo

生活者と企業による社会貢献
活動支援プラットフォーム

<http://gooddo.jp>

数字で分かる セプテーニグループ基礎知識

グループ社数



セプテーニグループは、持株会社である当社のほか、中核事業会社である(株)セプテーニをはじめとする連結子会社19社及び持分法適用関連会社2社で構成されています。(2013年12月現在)

平均年齢

29歳



平均年齢29歳の若く起業家精神溢れる人材が集い、独自の企業文化のもと、新たな産業をリードする事業をつくることで高成長を目指しています。

働きがいのある会社

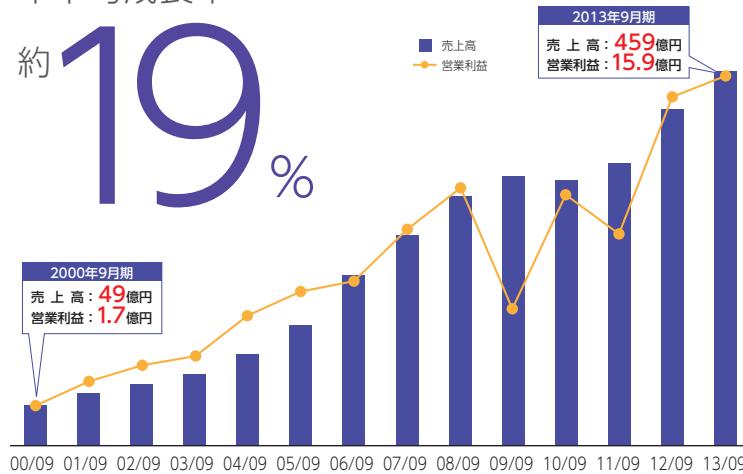
12位

セプテーニグループ(対象11社)は、Great Place to Work® Institute Japanが実施した2013年版「働きがいのある会社」ランキングにて12位にランクインしました。



年平均成長率

約19%



インターネット広告事業を開始した2000年からの13年間で、売上高、営業利益はともに9倍以上に成長。その間の年平均成長率は約19%になります。

Facebook関連事業の売上高

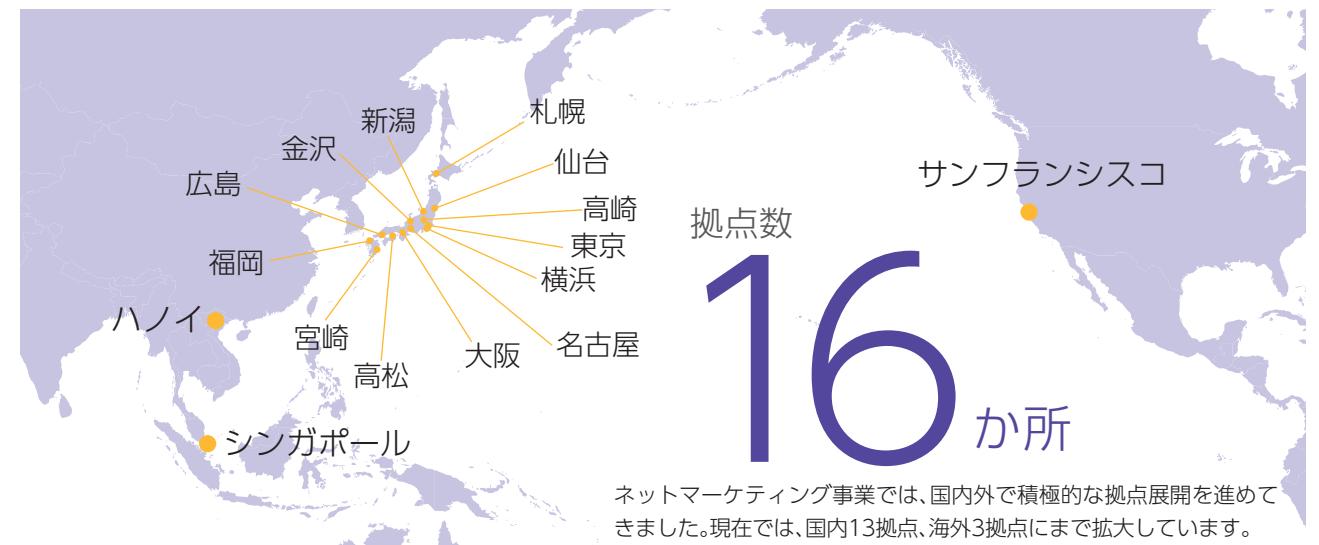


注力分野であるFacebook関連事業には国内でいち早く参入しノウハウを蓄積。2013年9月期の売上高は事実上の参入初年度となった2011年9月期に比べ約29倍にまで成長しました。

スマホ関連売上比率



2013年9月期も広告を中心にグループのスマホ関連売上が順調に伸長。第4四半期では連結売上高に占める比率が1/3を超えるまでに拡大しました。



ネットマーケティング事業では、国内外で積極的な拠点展開を進めてきました。現在では、国内13拠点、海外3拠点にまで拡大しています。

主なグループ会社

ネットマーケティング事業

VASARA 株式会社Vasara
インターネット広告事業

Septeni 株式会社セプテーニ
インターネット広告事業

MANGO MANGO株式会社
SEMオペレーション事業

EAGLE i 株式会社イーグルアイ
アドネットワーク事業

HIGHSCORE 株式会社ハイスコア
ソーシャルメディアマーケティング支援事業

SEPTENI X GATE 株式会社セプテーニ・クロスゲート
アフィリエイトネットワーク事業

Septeni Septeni America, Inc.
北米地域におけるインターネット
マーケティング事業

Septeni Septeni Asia Pacific Pte. Ltd.
アジア太平洋地域におけるインターネット広告事業

ASP 株式会社エイエスピー
eマーケティングソリューション事業

SEPTENI TECHNOLOGY SEPTENI TECHNOLOGY CO., LTD.
ウェブサービスの開発等

TRIGGER 株式会社トリガー
ソーシャルリサーチ事業

TRICORN トライコーン株式会社
CRMサービス事業



AXEL MARK アクセルマーク株式会社
モバイルコンテンツ事業

Septeni Direct Marketing
株式会社セプテーニ・ダイレクトマーケティング
DM事業

COMICSMART コミックスマート株式会社
マンガコンテンツ事業

新規事業開発

VIVIVIT 株式会社ビビビット
マッチング型人材採用プラットフォーム事業

Septeni Ventures 株式会社セプテーニ・ベンチャーズ
インキュベーションサポート事業

会社概要・株式の状況

会社概要 (2013年9月30日現在)

商号 株式会社セプテーニ・ホールディングス
(SEPTENI HOLDINGS CO., LTD.)

本社所在地 東京都新宿区西新宿八丁目17番1号
住友不動産新宿グランドタワー28F

電話番号 03-6863-5623
(FAX)03-6863-5624

事業内容 株式等の保有を通じたグループ企業の統括、
管理等

設立 1990年10月

資本金 20億2500万円

連結従業員 正社員715名/就業員838名



役員構成 (2013年12月20日現在)

代表取締役社長 佐藤光紀 (前列中央) 常勤監査役 柳克久
代表取締役会長 七村守 (前列左) 監査役 廣渡嘉秀
取締役副会長 野村宗芳 (前列右) 監査役 大滝令嗣
専務取締役 上野勇 (後列中央)
常務取締役 清水一身 (後列左から1番目)
取締役 松田忠洋 (後列右から2番目)
取締役 唐木信太郎 (後列右から1番目)
取締役 瀬戸口佳奈 (後列左から2番目)

株式の状況 (2013年9月30日現在)

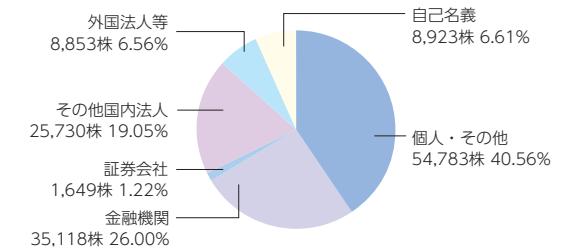
※2013年10月1日付で普通株式1株につき200株の割合で株式分割を実施しておりますが、本項目に記載の株式数は全て当該株式分割前のものになります。

発行可能株式総数 370,080株
発行済株式総数 135,056株
株主数 4,987名
大株主

株主名	持株数(株)	持株比率(%)
1. 株式会社ビレッジセブン	18,219	14.44
2. 日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社(信託口)	15,934	12.63
3. 七村 守	15,666	12.42
4. 資産管理サービス信託銀行株式会社(証券投資信託口)	9,717	7.70
5. ヤフー株式会社	7,000	5.55
6. 野村信託銀行株式会社(投信口)	4,140	3.28
7. 岩見 則男	2,428	1.92
8. 清水 洋	2,360	1.87
9. 日本マスタートラスト信託銀行株式会社(信託口)	2,132	1.69
10. MLI EFG NON COLLAT NON TREATY ACCT	1,885	1.49

(注)当社は、自己株式8,923株を保有しておりますが、上記の大株主からは除外しております。
また、持株比率についても、自己株式を控除して算出しております。

所有者別分布



所有株数別分布

